

ハカルプラスと POWTEX2025

HAKARU PLUS & POWTEX



三宅 康雄*
Yasuo Miyake

ハカルプラスは大阪に本社を置く、B to B の中小企業で「はかる」に特化したメーカーだ。1916年に(株)竹本電機製作所として電気計測器の国産化を目的として創業した。戦前陸・海軍の指定を受け、東芝の傘下として2千余名の従業員が通信・艦船・航空機の計測器を大量に生産していたが、大阪空襲により工場のほとんどを焼失。終戦により軍の管理を解かれ、集中排除法の発令により東芝の傘下を離れ、昭和23年に組織を再発足した。戦後は復興需要に応える計測器を製造し、特に電力復興器材として全電力会社に電気計測器を納入した。また、昭和27年電源開発事業団より生コンクリート製造に関する使用材料の記録計を国産初で開発・納入した。これが計量との最初の出会である。そして重さの記録から計量制御に事業を拡大、同時に電気技術に制御技術そして機械技術、情報技術が加わり、今日の粉体計量システム構築に繋がっている。

ハカルプラスには大きく分けて2つの事業がある。1つ目は創業からの電気をはかる事業だ。近年は、電力計測機器に新製品の5km飛ぶLoRa無線機を組み合わせることで省エネの為に「電気の見える化」ソリューションを提供している。カーボンニュートラルやSDGs、GXなどの社会課題も追い風となり、様々な工場・施設で役立っている。

2つ目は重さをはかる事業だ。「粉は生き物だ」、というフレーズはよく聞かれるが、言い得て妙だ。が、カーボンブラックのように流動性が高く、さらに流れると摩擦で着火するものや、水分凝結材を含んだ紙おむつの原材料、比重が小さく供給機から排出されてからなかなか落ちてこない粉など、粉体の種類によって様々な場面に遭遇する。多種多様な粉体を指定された時間内に指定された精度で計量する。これが粉体計量技術の醍醐味だ。

このご縁で日本粉体工業技術協会に入会し、私は2021年の国際粉体工業展大阪、2023年のPOWTEX2023、そして今回のPOWTEX2025で3回目の委員長を拝命している。

初めて委員長として携わった国際粉体工業展大阪2021ではコロナ禍での開催のため、2020年第1回の委員会の場でオンライン展示会を提案し、1年かけてリアルと

オンライン展示会を併催することができた。まだまだオンラインが普通でなかった時に委員会メンバー並び展示会の企画運営を手伝っていただいた株式会社シー・エヌ・ティの協力があったからこそ実現できた。本当に有難い。

そして前回のPOWTEX2023では、新しい試みとして、会場にPXステーションを設けて、トークショー形式でPX (Powder-technology Transformation) に関する話題を提供することを企画した。PXとは、いろいろな粉体技術 (Powder-technology) が掛け合わされ (x)、製造プロセスが劇的に変革 (Transformation) され、よりよい社会の実現に大きく貢献して、希望に満ちた明るい未来をつくることを表している。リモートが当たり前の時代だからこそ、「リアルへの回帰」を目標とした。展示会場内に設けられたPXステーションではトークショー形式でMCと大学の先生や企業の方との掛け合いが絶妙で大いに盛り上がった。

POWTEX2025は2025年10月15日から17日まで、インテックス大阪で開催される。2023年より展示会名を国際粉体工業展大阪からPOWTEX (Powder-Technology Exhibition) に変更し、テーマも「未来をつくるPX」とした。

慣れ親しんだ国際粉体工業展という展示会名をPOWTEXに変更したのは、POWTEXをブランド化して海外の方にも来て頂けたらと考えたからだ。また、展示会のテーマを「未来をつくるPX」としたのは、このPXという言葉を使って、粉体技術が最先端の技術で、いかに世の中に役立っていることをアピールすることが狙いだ。

今回のテーマも2023年から使っている「未来をつくるPX」に加えて、サブテーマとして「粉体技術で描く未来社会のデザイン」と決定した。2025年大阪で開催される関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を意識したものになっている。

今回のPOWTEX2025でもPXフォーラム、APPIE産学官連携フェア2025、粉体入門セミナーなどの併催行事の充実には展示会にとって必要不可欠だ。粉体工学会の皆様には毎回絶大なご支援を頂き感謝の言葉しかない。

また、PXステーションのグレードアップに加え、新たに「イチオシ！」を今回企画する。出展企業に「イチオシ！」したい製品や技術を1つ決めてもらい「イチオシ！」として展示し、オンラインでも「イチオシ！」コーナーを作る。またPXステーションでもショートプレゼンを企画している。

出展社、来場者の皆さんに価値ある展示会として、委員会のメンバーと共に盛り上げていきたい。粉体工学会の皆様は今までと変わらぬご支援とご鞭撻をお願いします。

(著者紹介)

1958年生まれ。電機メーカーの後継者として育てられ、京都工芸繊維大学生産機械工学科卒、米国Yale University電子工学修士、2000年タケモトデンキ株式会社代表取締役社長就任、2016年創業100年を機に社名をハカルプラス株式会社へ。日本粉体工業技術協会副会長、日本電気計測器工業会理事、大阪市淀川工業会会長を兼任

* 連絡先 miyake@hakaru.jp